

「住用中学校の文化財探訪の取組」

1 学校名

奄美市立住用中学校

2 学年・人数

1年生（計4人）

3 日時・場所

(1) 学習会等の日時・場所

5月24日(水) 世界自然遺産センター，マングローブ原生林，三太郎峠

5月25日(木) フナンギョの滝，モダマ自生地，青久史跡

5月31日(水) 住用中学校

(2) 発表の日時・場所

6月10日(土) 住用中学校

4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

(1) 名称・時代

- ・ 青久集落（あおくしゅうらく）・ むちゃかなの碑
- ・ モダマ自生地 ・ フナンギョの滝

(2) 特徴

- ・ 三太郎峠：夜になるとアマミイシカワガエル，アマミノクロウサギなど天然記念物の姿を観察できる。
- ・ 青久集落の玉石垣：復帰後，奄美群島復興事業第一号として実施された事業である。
- ・ むちゃかなの碑：江戸時代末期，喜界島出身の女性が美しい容姿を妬まれ海に突き落とされ青久集落に流れついた亡骸を葬った碑がある。
- ・ モダマ自生地：奄美大島で唯一ここだけにモダマが自生している。
- ・ フナンギョの滝：川内集落の奥にある落差のある滝。

5 保存会や地域との連携の具体

1年生宿泊学習の一環として，地域の自然や史跡と関わる活動を総合的な学習の時間を用いて計画した。1日目午前の世界自然遺産センターにおいて，野生生物保護功労者表彰・環境大臣賞を受賞した自然写真家の常田守氏を講師に迎え住用地区の自然についての概要を学び，午後にマングローブをカヌーで散策した。夜はナイトツアーで三太郎峠にすむ貴重な生物の観察を行った。2日目は奄美市文化財審議員の山下茂一氏を講師に迎え，フナンギョの滝，モダマ自生地，青久史跡の散策を行った。

6 活用の取組の工夫した点

発表する際には，電子黒板やプレゼンテーションソフトを活用し，写真やイラストを使い見ている人が分かりやすい発表を心がけた。

7 取組の様子（研究発表，創作劇等）



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【生徒】

- ・ 山に入ったときに空気がとても美味しいと感じました。奄美の植物は、ここにしかない植物なので大事にして増やしていきたいと思いました。
- ・ 初めて青久に来ました。おばあさんが一人で石垣を保っていると聞き、すごいなと思いました。

【教職員】

- ・ 普段の生活の中では、危険に感じなかなか足を踏み入れないところにもガイドの助けを得て立ち入ることで、より深く奄美の自然の細部の美しさに気付くことができました。生徒たちも地元暮らしガイドの姿に関心をもって自然を見つめることができたように感じました。

【地域の方から】

- ・ 子供たちが暮らすこの奄美大島がもつ生命の豊かさ，それを育む自然の恩恵を目の当たりにすることは，子供たちの生命力の高まりに結びついていっていると思います。伝える側のガイドである我々の活動は，後継者育成につながると思います。